

# 森 寺

SEIJU

1984

春季号



拜啓 凌きよる好時節と相あり  
愈々市情洋のこころなるもす  
さき、生壽の第二号出来のりなり  
おかげ致ます 今回はあつ長久寺の  
新小敷化路線とて海内留学僧  
派遣育英会の設立も中山法皇  
講堂のなすま大を市高讀くださ  
ますようお願ひ致ます  
末筆ながら今後一層の市情味も  
祈念し併せ今後回の市情力と致す  
市情に申すたす  
合掌

三月吉日

長久寺住持 黒田大因

(武志)

右法殿

不<sup>は</sup>放<sup>げ</sup>逸<sup>み</sup>

地<sup>ち</sup>に在<sup>あ</sup>るもの<sup>を</sup>みる<sup>ごとく</sup>  
山<sup>や</sup>頂<sup>ま</sup>に立<sup>た</sup>つひと<sup>の</sup>  
憂<sup>うれ</sup>ある<sup>愚</sup>衆<sup>と</sup>を<sup>み</sup>お<sup>ろ</sup>す<sup>な</sup>り  
こころ<sup>に</sup>う<sup>れ</sup>い<sup>な</sup>く<sup>し</sup>て  
智<sup>ち</sup>慧<sup>ゑ</sup>の<sup>高</sup>閣<sup>や</sup>に<sup>の</sup>ぼ<sup>り</sup>  
放<sup>は</sup>逸<sup>ゑ</sup>を<sup>却</sup>け<sup>し</sup>賢<sup>けん</sup>人<sup>と</sup>は  
は<sup>げ</sup>み<sup>も</sup>て

「法句経」



# 森 毒

SEIJU

1984 毒 季 号





不動明王像—不動殿本尊





伝桃山時代—不動明王図

# 求めてやまぬ 法の道のり

山主

福田大園

善光寺は、佛天の御加護と檀信徒の皆々様の御尽瘁により、日毎に内容を充実し、面目を新たにして参りました。就中、釈迦殿の落慶は、「横浜に善光寺あり」と、世人をして瞠目させるものであります。

加えて昨年、開創十五周年記念事業として、釈迦殿本尊釈迦牟尼佛の脇侍、文殊・普賢両菩薩の勸請、並びに大般若經六百卷の新添を發願いたしました。さいわいにして皆様方の御協賛を賜わり、淨財の御喜捨をお寄せいただき、無上の法幸に感激しております。

脇佛の制作にはなお歳月を要しますが、大般若經は近々完成の見込みですので、五月二十八日の不動明王大祭に因み、解繙かいはん（紐ひもとき）法要をとり行ない、以て檀信徒各家の繁栄を祈禱する所存であります。

さらに、前号で申し上げましたように、善光寺は今後、皆様方のお力の結集を報恩行にふり向けるべく新しい軌道に歩みを進めて参り

ます。昨年十二月一日、歳末助け合い托鉢募金を致し、いささかなりとも地域社会に布施を行ずることができましたし、また、「善光寺海外留学僧派遣育英会」を設立すべく、去る一月十五日、設立準備委員会を開催し、来春には海外に留学僧を派遣することとなりました。

今後の宗教界の発展は一にかかつて人材の育成にあり、この企てを通して、世界の平和と人類の進運に寄与したいと願うものであります。

高祖様は『修証義』に「この一日の身命は尊ぶべき身命なり、貴ぶべき形骸なり、この行持あらん身心自らも愛すべし、自らも敬うべし、我等が行持によりて諸佛の行持見成し、諸佛の大道通達するなり、然れば則ち一日の行持これ諸佛の種子なり、諸佛の行持なり」と示しておられます。

「光陰は矢よりも迅か」であり「身命は露よりも脆し」であります。何卒、今後共、佛法の興隆と寺檀の繁栄に一段の御尽力をお願い申し上げます。





伝17世紀チベット舍利塔



善光寺中庭

# 二つの得度式

佐藤俊明

## 喜びの朝に

を表した次第。

武徳君の得度を賀す

此に山門を闢いて十五年

龍楼鳳閣、美研に誇る

麟児得度して、点晴全し

照破す大光、界三千

方丈様がここに寺を開いて十五年

しかならないが、立派な建物が実に美しい。

に美しい。

龍楼……高殿の楼門

鳳閣……楼閣を形容した言葉

美研……すつきりと美しいこと

賀武徳君得度

此山門十五  
年  
龍楼鳳閣  
美研  
麟児得度  
点晴全  
照破大光  
界三千

昭和五年、年九月六日

俊明後四



昨年九月六日、山主の長男武徳君（小学六年生）の得度式が行なわれた。幸いにも朝はカルチュアセンターに出講の日だったので、私も参列することができた。山主御夫妻はもとより、善光寺檀信徒の皆様にも大きなよろこびであることに思いを致し、一偈を賦し、禿筆を弄して祝意



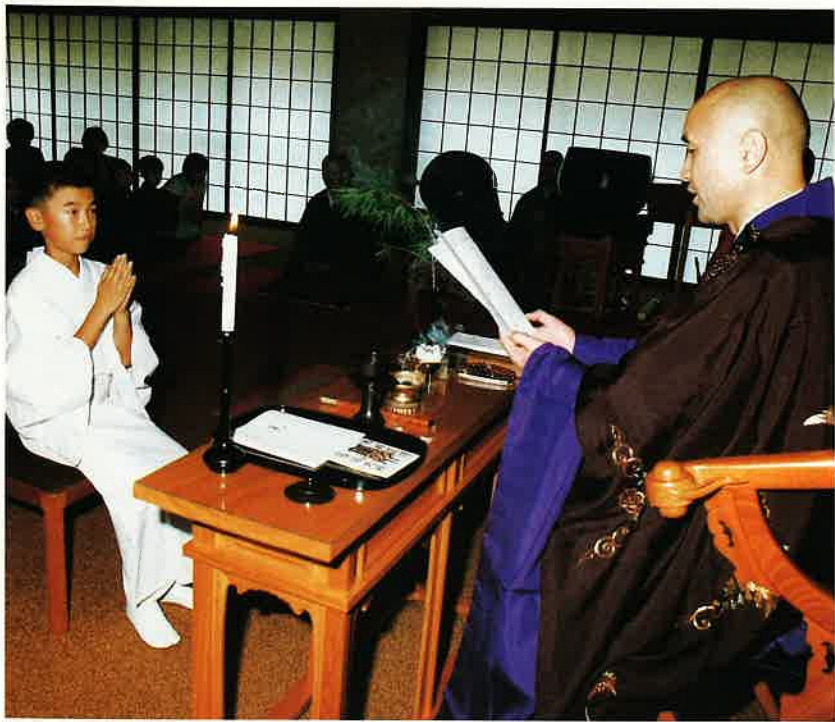
建物が立派になったこの時、すぐれた長男が、後継住職たるべき第一歩として得度の式を挙げたので善光寺の基礎は磐石のものとなった。

麟児……麟児、すぐれた少年  
点晴……画龍点晴。昔ある画家

が龍を描いて、その晴  
を書き込んだところ、

風雲生じ龍は忽ち天に  
上ったという故事から、  
事が完成する最後の仕  
上げをいう。

そして大光（武徳の僧名）はその  
名のごとく全世界を照らすであ  
う。



### その1 善光寺での得度式

山主の徒弟成田泰夫君（二七歳）は、立正大学英文科卒。本師の日本一周行脚の勝蹟にならない、自転車て日本を一周し、ロス禅センターで研修を積むこと一年有半。J S R C（曹洞宗東南アジア難民救済会議）のボランティアとして難民キャンプに入り、救援活動——教育の振興、民権文化の復興——に従事すること三年半。（この間のJ S R Cの活動に対して、国連西南アジア難民救済高等弁務官より感謝状が寄せられている）。昨冬キャンプを出て、出家得度の準備をすすめ、去る十二月七日、ワットパクナム住職プラ・タンマテラーラーシヤマホームニを戒師として得度を受け、上座部佛教の僧侶となり、二二七の戒法をまもるきびしい僧院





その2 タイ国ワットパクナムでの得度式



生活に入っている。  
得度式の様子については成田君の  
手記を読んていただきたい。

菩提行

赤間 義徳

巖きびしい寒気をついて

僧の列が尾根道を歩いていく

網代笠あじろがさをかぶり 鈴かね 錫杖しやくじょうをうち鳴らし

経文を一心に唱えながら

僧の列が此岸しがんと彼岸ひがんの境を歩いていく

凍りついた風景の中

僧の魂だけが燃やして

遙かな求道の旅の足元を照らしていく

純白の魂の列がりんりんと響いていく

ひたすらに ひたむきに歩いていく

菩提樹ぼだいじゆげ下に坐まして瞑想めいそうする

佛陀のみ心を目ざして



菩提行（三喜庵筆）善光寺客殿

# 善光寺收藏品



鉄砂草花文茶盃



掛分釉指描文水差





善光寺収蔵の茶器

喫茶去

善光寺に収蔵される工芸品の中に

栃木県益子の陶芸の名匠浜田庄司先生の作品が数点あり、茶会の席で折

にふれ用いられております。これは

善光寺の本寺光真寺が大田原である

という地縁にもよりましようが、方

丈が愛蔵する由縁は浜田先生の人間

としての立派さ、工芸の正道を行脚

した陶匠の作が持つ風格に対する敬

念によるものでありましよう。

茶盃は浜田先生が陶匠として最も

心を込めて取り組まれたものであり

まして、確かなるくろの技、削りの

研えが力に充ちた姿に感じられます。

益子の地釉である木灰の釉薬を化粧掛けて、それに鉄砂で簡素な草花文をおきますが、描きに描いて文様としてこなし切った自在の筆使いは、自ずと無事の美に結ばれています。

左頁は水指ですが、胴の上半分に

灰釉を、下半分には鉄釉を掛け分け

ています。鉄釉が乾かぬ間に指で文

様を描く指描きと呼ばれる手法を用

いております。この手法は李朝の永

東浦窯のものや古丹波など民窯の雑

器にみられるもので、作者はこの単

純素朴な手法を使って、勢いのある

文様をつけています。茶器をことさ

らに意識せず民窯のたくましさの内

にもった水指と申せましよう。

日本民芸館主事

佐々木 潤一

不放逸

法句經

求めてやまぬ法の道……………黒田大圓 4

カラー特集 ■ 二つの得度式……………赤間義徳 8

詩 ■ 菩提行……………赤間義徳 12

カラー特集 ■ 善光寺収蔵品…………… 14

留学僧派遣育英会の発足…………… 18

留学僧派遣育英会設立の意義……………東 隆真 19

善光寺海外留学僧派遣育英会設立趣意書…………… 20

宗教法人善光寺海外留学僧派遣育英会規程…………… 22

宗教法人善光寺海外留学僧派遣育英会細則…………… 24

隨 筆 ■ 南方仏教の僧となるの記……………成田 泰夫 28

座 談 会 ■ 医事相談の意義と成果…………… 32

禪 話 ■ 雪の晨に臂を断ち……………佐藤 俊明 50

寄 稿 ■ □入禅センターでの生活……………池沢 紫山 54

■ 一人一寺・心の寺……………井上 球二 58

■ 善光寺だより…………… 62

■ 観音のみ声……………遠藤 太禅

編集後記

●表紙絵・題字・カット 二喜庵 ●□絵写真 五十嵐千彦

## 留学僧派遣発足準備委員会開かる

一月十五日成人の日、善光寺海外留学僧派遣育英会の設立準備委員会が開かれた。委員及び職員顔ぶれは次の通りである。

(五十音順)

駒沢女子短期大学教授・学監	東 隆真
光真寺住職	黒田俊雄
宝泉寺住職	佐藤俊明
大本山総持寺祖院監院	鷺見透玄
防衛医科大学校教授	中村治雄
駒沢大学副学長	奈良康明

幹 事

福蔵寺住職

新美昌道

午后三時、山主、導師となり、釈迦殿において、本尊釈迦牟尼佛に奉告の読経。終つて不動殿に移り、設立準備委員会。

まず山主が、海外留学僧派遣の発願趣旨とこれまでの経緯について述べ、各委員を紹介し、佐藤師を設立準備委員長に選出した。

佐藤師、席につき挨拶ののち、山主より基金が贈呈され、議事に入り、設立趣意書、規程、細則が審議に付され、ついで役員委嘱について意見が交換され、六時三〇分会議を終了した。決定した事項は次の通りである。

## 留学僧派遣育英会設立の意義

東 隆真

このたび、善光寺住職・黒田武志老師は、善光寺海外留学僧派遣育英会を設立された。

同寺開創十五周年を期して、海外に留学僧を派遣し、人材の育成をはかり、仏教を振興し、世界の平和と人類の進運に寄与せんことを願うてのことである。

これは、若き頃、燃える情熱を胸に、タイ国仏教寺院に留学し、白人伝道のためアメリカに渡った老師の貴重な体験が、その基調となっている。

未曾有の危機と不安と絶望を招いている地球上の現代において、不殺生を第一に標榜する世界人類の至宝・仏教のもつ意義と役割は、予想以上に、はるかに大きい。

これに対する日本仏教界の認識は、近年、かなり高まって来るとは言え、とくにこの方面の具体的な方策はと言えば、一、二をのぞいて、ほとんど全く着手されていないと見て過言ではなからう。

使命観と責任感をもった前途有為の真摯な仏教僧が、広く世界を舞台にして、刻苦勉励し、二十一世紀の輝かしい未来を創造してほしい。

それでは、そのための大事業を、いつ、誰がやるのか。

他に依存することのできぬ、しかし一か寺の住職の立場で、老師は、蹶然、宿願を実現すべく、その第一歩を、ここに踏み出そうとしている。

関係各位の絶大な御理解と御支援を、切に切に望んでやまない。

なかならず、黒田老師の誓願と意気に感じ、仏教のため、世界平和のためには死んでもよいというほどの大願心をもつ高士の、一層の奮起を希い、育英会に積極的に応募してほしいものである。

## 善光寺海外留学僧派遣育英会設立趣意書

善光寺を開創して15周年を閲しました。ゼロからの出発ではありましたが、法輪轉ずるところ、食輪自ら轉ぜられております。これ正に佛天の御加護と大方の諸大徳諸賢の御協力御支援の賜物で感謝にたえないところであります。

宗祖を通して釈尊に還ることが私の宗教生活の帰趨とするところであり、この信念が私をして佛舍利奉拝日本一周行脚、インド佛蹟巡拝、そしてタイ国留学に駆り立て、さらには白人と参禪を共にすべくアメリカへ向わせたのであります。そしてこの間に頂戴した尊い佛縁が、私の今日をあらしめる土台づくりとなったのであります。いまや人類は宇宙時代に入り、時間的にも空間的にも距離は著しく短縮され、世界はあたかも一国の觀を呈しておりますが、反面、人類はかつてない不安と絶望の危機に見舞れております。これは明らかに現代社会の悲劇であり、今日ほど佛陀釈尊の教法宣布を必要とするときはないのであります。

しかるに、わが国は世界最大の佛教国でありながら佛教界は遺憾



ながら、世界の大勢に即応して教化の実を挙げる態勢に欠けております。こゝに海外生活を通して広く世界に活眼を開く人材育成の重要性を痛感するものであります。

よって善光寺は開創十五周年を期して報恩行の一端として、海外に留学僧を派遣し、人材の育成をはかり、もって、佛教を振興し、世界の平和、人類の進運に寄与せんことをねがい、海外留学僧派遣育英会を設立するものであります。

昭和五十九年一月十五日

宗教法人 善光寺 黒田 武志

# 宗教法人善光寺海外留学僧派遣育英会細則

## 第一章 総 則

(名 称)

第一条 この会は、宗教法人善光寺海外留学僧派遣育

英会という。

(事 務 所)

第二条 この会は、事務所を横浜市港南区日野町一六

〇四宗教法人善光寺内におく。

## 第二章 目的及事業

(目 的)

第三条 この会は、大学卒業相当以上の学力を有し、

佛教を修学する者のうち、学業操行ともに優秀

にして身心堅固なものを海外に派遣し、佛教の

興隆、国家社会の進運に寄与し得る有為な人材

を育成することを目的とする。

第四条 この会は、前条の目的を達成するため次の事

業を行う。

一 海外留学僧の派遣

二 その他、前条の目的達成のために必要な事

業

## 第三章 役員及職員

(役員の数)

第五条 この会に次の役員をおく。

理事六名以上八名以内 (うち理事長一名 常務

理事一名) 監事二名

(役員の選任)

第六条 理事長は、善光寺代表役員をもって充てる。

2. 常務理事は、理事の中から理事長が選任す

る。

3. 理事は、次の各号により選任する。

(事 業)

一 佛教界代表

二 学識経験者

三 善光寺檀徒代表

4. 監事は理事会において選任する。

5. 理事長は顧問を推戴し、参与を委嘱する事が出来る。

#### (役員の職務)

第七条 理事長は、この会の事務を総理し、この会を代表する。

2. 常務理事は、理事長を補佐し、理事会の決議に基き事務を処理する。

3. 理事は、理事会を組織し、この会の業務を議決し執行する。

4. 監事は、会務を監査する。

#### (役員の任期)

第八条 役員の任期は三年とし、再任を妨げない。

二、補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。

#### (役員の報酬)

第九条 役員は無給とする。

#### (職員)

第十条 この会の事務を処理するため幹事をおく。

二、幹事は、理事長が任免する。

### 第四章 会 計

#### (経費の支弁)

第十一条 この会の事業遂行に要する経費は、基金から生ずる果実及び寄付金をもって充てる。

#### (事業計画及び予算)

第十二条 この会の事業計画及び、これに伴う収支予算は毎会計年度前に理事長が編成し、理事会の同意を得るものとする。

#### (事業報告及び決算)

第十三条 この会の決算は、毎会計年度終了後二ヶ月以内に理事長が作成し、事業報告とともに監事の意見を付し、理事会の承認を受けるものとする。

(会計年度)

付 則

第十四条 この会の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

一、この規程は、昭和五十九年一月十五日から施行する。

第五章 補 則

(細 則)

第十五条 この会の運営についてその細則は、理事会

二、この会当初の会計年度は、第十四条の規定にかかわらず規程施行の日から翌年三月三十一日までとする。

の議決を経て別に定める。

## 宗教法人善光寺海外留学僧派遣育英会規程

第一条 宗教法人横浜善光寺海外留学僧派遣育英会規程に基づきこの細則を定める。

第四条 海外留学志望者は、次の書類を本会宛提出しなければならない。

第二条 海外留学僧の派遣先は当分の間次による。

一 保証人と連署した願書

一 Watpaknam, Bhasichareon Bangkok.

二 卒業証明書

二 Zen Center of Los Angeles. 905 Normandie

三 本会の指示によるレポート

Ave. Los Angeles Calif. U.S.A.

第五条 海外留学僧は、理事会の選考を経て理事長が

第三条 海外派遣の人数及び期間は、諸般の事情を斟酌し理事会において決定する。

決定し、その結果を本人に通知する。

酌し理事会において決定する。

第六条 海外留学僧には、派遣先までの往復旅費及び

派遣先における滞在に要する必要経費を支給する。

第七条 海外留学僧は、毎年度末に修学状況報告書を

理事長あて提出しなければならない。

第八条 海外留学僧が次の各号の一に該当すると認め

られたとき、理事会は派遣先の責任者の意見を徴して海外留学僧としての処遇を停止する。

一、健康を害し、その他身体の原因により、修学を継続し得なくなつたとき

二、修学の意欲を失ない、留学僧として不適当な行為があつたとき

三、その他、留学僧として修学を続け得ざる状況の生じたとき

第九条 海外留学を終えた場合、留学僧は理事長あて

報告書を提出しなければならない。

第十条 海外留学僧は、帰国後、本会とよく連携を保

ち将来有為な人材となるべく適切な指導助言を受けらるものとする。

第十一条 この細則の実施について、さらに必要な事項は別にこれを定める。

付 則

一、この細則は昭和五十九年一月十五日より実施する。

両大本山貫首猊下を名誉顧問に推戴する。

顧問には、左の方々を推戴する。

顧 問

善光寺開基家 株式会社ナリス化粧品社長 村岡有尚  
善光寺檀徒総代 伊藤建築研究所々長 伊藤喜二郎

駒沢大学総長

タイ国・ワットパクナム住職 プラ・タンマテララ  
ーチャマホームニ

桜井 秀雄

ロスアンゼルス禅センター主管

仏真寺住職 前角 博雄

ニューヨーク州立大学教授

伊藤 博

世界仏教徒連盟本部(バンコク)事務次長 小谷亀太郎

### 左の方々を参譽に委嘱する。

参 譽

曹洞宗開教振興協議会委員

松永 然道

日本パクナム会会長

石附 周行

法類代表(桐谷寺住職)

黒田 純夫

前大本山総持寺国際部長

西村 輝成

富士銀行上大岡支店長

平林 實

曹洞宗開教振興協議会委員

小笠原隆元

### 役員は次の通りである。

役 員

第三号選出 防衛医科大学校教授

中村 治雄

理事長 善光寺住職

黒田 武志

監 事 西島産婦人科病院院長

西島 一郎

常務理事 宝泉寺住職

佐藤 俊明

監 事 仲田会計事務所所長

仲田 清祐

理 事

職 員

第一号選出 大本山総持寺祖院監院

鷺見 透玄

幹 事 福蔵寺住職

新美 昌道

本寺・光真寺住職

黒田 俊雄

第二号選出 駒沢大学副学長

奈良 康明

駒沢女子短期大学教授

東 隆真



今年は準備期間とし、第一回留学僧の派遣は来春とする。  
なお、派遣先はタイ国ワット・パクナムとする。



# 南方仏教の僧となるの記

前曹洞宗ボランティエア会  
タイ国駐在員 成田泰夫

タイ・スリランカ・ラオス・ビルマ・カンボジアの東南アジア諸国では御存知のように二二七の戒律を厳しく守る上座部仏教国であります。そのタイ国でこの度得度を受けさせて頂く事は受け難き仏縁と思い感謝し、良く修行することを誓うものであります。

今回御縁をいただいたパクナム寺は、日本曹洞宗を始め大乘教団と密接なつながりを持ち、善光寺黒田武志方丈がその橋渡しに尽力されている事は誰もが周知のところであります。パクナム寺について語ることは新入り僧の役目ではありませんが、しかし、この寺には日本仏教徒との過去の長い歴史の匂いを感じさせるものがあります。私の如き新入りをタイのお寺が受け入

れてくれること自体、曾てこの寺に安居した多くの日本僧侶の実績がその礎となっているに違いありません。始めにタイの仏教というものが一般的にあまりにも知られていない為に少し説明の必要があるかと思えます。まず小乗仏教という名称は、小さな乗りものという意の、大乘の反対語としての、いわば劣称であり、南方仏教もしくは上座部仏教と呼ぶのが適当であるということ。もう一つは通過儀礼としての得度の習慣であります。男子二〇歳を過ぎる頃には自分の為以上に両親への徳行として一時出家を行ない、また僧院での生活を経験することにより、仏教というこの国の要<sup>かま</sup>となつてくる精神的な楔を自らに打ち込むことにも



なる訳です。但し、物質文明の急速な流入による社会変化で、大バンコク市に於て、得度経験者が五〇%を割ったとも言われていることは一つの大きな流れを象徴しています。

以上のような個有の文化を持つ国で日本人が得度を受けることは、同じ仏教国同志とは言え、全く異なった仏教体系に触れるという事にもなるわけです。しかし日本では、「小乗仏教」の名の通り、軽んじる風潮もあり、同じ仏教なら日本で学んだ方がよほど実になるというような極論もあります。私見ですが、同じ仏教と名乗る両国でありながら、異宗教であると言っても過言ではない程の違いがあり、だからこそお互いを知る努力が必要であろうと考えます。この点で外国人がタイで得度をする意味があるという論理に還るわけがあります。

さて私が経験した南方の得度式を簡単に御紹介したく存じます。すでに述べたようにこれまでパクナム寺において相当数の方が得度され、六年前には佐藤俊明

老師のお弟子であられる采川道昭師の手で日本語訳『得度式次第』も刊行されている為、その導入部においては十二分に整っています。

さて私の得度は成道会の前日の二月七日でした。

パクナム寺のある西バンコク・トンブリは未だに洪水の影響を受け、途中道路が運河と化している所もあり、そんな困難を越えて二十数名の日本人やタイ人が集まってくれました。式の日時は占術によって決める場合が多く、例えば朝の六時三分といったように、山手線の時刻表を連想しそうな数字が出てくるものですが、私の場合は四時ちようどでありました。得度式というのはいわば儀式の最後の段階であり、実はこの日までに得度式で唱えるパーリー語の唱文の暗記、式に立ち会う戒師・教授師・羯磨師、その他列座する二五名の僧伽の当日の供養のことなどをすべて整えてからであることは言うまでもありません。得度日が決まっていたからはききたりで、お世話になった方々などを廻り、自分が過去において造ってきた俗人としての懺悔をし、

貸借の清算もし、清浄な身になってから得度を迎えるのです。その他もろの慣例については略します。

さて剃髪を済ませ白衣に身を包み、得度の儀まで静かに待つことしばらく。ここまできるといかに感応の鈍い私にも、まもなく迎える二二七の具足戒受持の重さをかみしめる思いでありました。しかしタイ国における一時出家は、親類縁者への功德の意味あいが強く、哲学的というより現世的で、その点開式を待つ日本人の私はむしろ個人の内側における思索をつのらせ、高ぶらせていたのが正直なところです。その意味で自分を大乘的人間であると感じざるを得ません。しかし、一人一人の思いはどうか、志をもつものに仏門を開き、あたかも観自在菩薩の掌中に居るかの如き安らぎを与えてくれる、大小乗を問わない仏教というものの大きさを同時に知った思いでありました。

さて式が挙行される授戒堂に入堂する前に、縁者ともどもお堂の周囲を右に三周した後、堂の正面にある浄域を示す結界標石の前で献香・献華・三拝を行ない、

この式の序奏が始まる。お堂に入っても戒師の前に赴くまでは堂内の本尊に於ける献香・献華・三拝、その後この式の施者から三衣を受け取り、合掌した腕に戴いたまま戒師の前に進むという順を踏まねばならない。その後、現前の二八名の僧伽に対し二千五百年前の仏教教団に対してもそうしたようにパーリー語の唱文が続く。前述の采川師の労作があるので、日本語でその内容を知る事が出来る。つまりは現前の尊師らに得度志願者の一切の罪過の許しを乞い、一切の苦からの解脱の為に出家を乞い、そして認められて初めて黄衣の着用を許される。黄衣着用後、式は三帰戒・十戒という僧侶としての基本的を守るべき戒律の授持に移る。その後、現前比丘の会議によって僧伽入団の賛否が問われる。パーリー語によって朗朗と歌われるように唱えられ、全ての賛成があつて始めて二二七の戒律を授かり僧伽集団への仲間入りとなる。

一 時間を越える式を終えてみると、そこには黄衣をまとつた自分があり、それは全く別人のごとく。一

時間前の自分がさかんに問いかける「おいどうしたんだ」やけに静かじゃないか、何か変だぞ」と。慣習で得度したての新僧をその僧坊へ訪ねて勞らう、というか次々に訪れてきては三拝をしてゆく。頭を床に深くつけて三拝をするタイの人達の顔には、一つの儀式を終えた満足感が見えると同時に、今、目の前にしている私という個人ではなく黄衣に対する真険で敬虔なものが見える。それは宗教が各個人の意志でする無理なものではなく嘗々と流れる精神の奥底のようなものを感じた。その後も毎日のように経験する南方仏教のしきたりの一つ一つに、意志の底に流れる何かというものについて意識せざるを得ない。それは大小乗の違いいかんでなく、仏教の底もしくは宗教の底流を流れるものであると信じたいし、パクナム寺在寺中も諸々の学習と共に確かめてみたいことである。

# 医事相談の意義と成果

防衛医科大学校教授

中村 治雄

善光寺山主

黒田 大圓

司会・宝泉寺住職

佐藤 俊明

司会 防衛医大教授に御栄進、おめでとうございます。今日はお忙しいところおいいただき、有難うございました。

中村 いいえ。とんでもございません。

司会 医事相談をはじめられて、もう六、七年になるそうですが、その間の御感想をまずお聞かせいただけませんか。

中村 はい。私、医者として日常、体の具合の悪い人達を相談しているわけですが、医学的に治り得る部分と、医学では治せない、精神的な面で矯正しなければ治し得ない部分のあることを常々感じておりました。

ですから、方丈さんから医事相談をはじめるということを伺った時、これはいい企画だし、私どももお役に立つなら喜んで協力したい。けど、それ以上の部分は方丈さんの力を借りなければならぬのですが、さいわい場所がお寺ですから、精神面の矯正には大変結構だと思いました。

何回か実施してるうちに感じたことは、ふだんいろ





いろいろ困りになって実際に治療を受けておられる方もいますが、お医者さんからゆっくり話を聞くことができず、従って疑問が疑問のままいつまでも残っていて悩んでおられる方が多いです。

**司会** 普通診察を受けたんでは中々聞かれませんか。

**中村** いかにも医者が忙しそうにバタバタやっているので聞けない。そういう悩みを持った方が来られる。今日もそうでしたし、前回もそうでした。そういう患者さんに対しては少し役に立っているかな、という気がするんです。

こういう場所では、医師法違反になるので治療はできないんですが、「こういう風になさったらどうですか?」という意味での相談はできる。だから患者さんにとっては、ふだん聞けないようなことが聞ける。そういう意味では患者さんにとってプラスになっているかな、と思いますし、そういう方が年々ふえて来ているように思います。だから方丈さんが医事相談をはじめられて、こういうことで檀家の方々に確かにプラスに



なっているとありますし、できるだけ応援させていた  
だきたいと思っております。

司会 方丈さんのねらいとびつたり合ったわけですね。

方丈 ええ。

司会 先生でなければ方丈さんのねらいに即した医事

相談に当たっていただけなかったかもしれないし、さ  
いわいでしたね。

方丈 ほんとうにその点は有難いことです。人間は、  
精神的な面でいくら素晴しくても、肉体に欠陥があれ  
ばどうしようもない。寺は精神面では力になれるが、  
肉体的な面では医学の力を借りなくてはなりません。  
そこで中村ドクターにお願したわけなんです。

司会 医学には限度がある。ということですが、具体  
的な例をお話いただけませんか。

中村 医者側の限度と、宗教で治し得る部分にもや  
はり限界があるんですね。これはあとでお伺いしたい  
んですが、私どもの側から見ると、たとえば最近ご存知  
のように動脈硬化、特に成人病が非常に多くなり、ま  
たそれなりに教育も進んで来ましたので、胸が苦しく  
なったとか、或いは痛くなった、歩くと動悸がする、  
息切れがしてくるといって、これは心臓が悪いんじゃない  
かということ訪ねてくるようになります。そこで  
お調べするのですが、実際には心臓は何ともない、

また血圧も高くはないし、いろんな血液検査をしても、レントゲンで見ても、心電図をとっても特に異常はない。ただご自分としてはどうも納得がいかない。何かここに異常があるというふうに思っておられる。そのような方のお話を実際に聞いてみると、確かに心臓病に合う症状、合う所見があるんですが、また全く合わない部分も出てくるんです。それでお医者さんから、「これはもう大丈夫だから、心配しなくていいよ」と言われても安心できず転々となるさる。「自分としては、こういう症状があるのに、どうして何でもない、たいしたことないといわれるのか。自分では確かに苦しい、痛いんだ」と訴えられる。そういう場合、僕は、コミュニケーションがうまくいってないんだなと痛切に感ずるのです。症状としては確かに心臓病に似た病状なんです。たとえば一時的に血圧の変動が起るこ  
とがあります。しかし人間の体は機械と違うので、一時的に頭が重くなったり肩が凝ったりすることがあります。それが本当の病気かどうかということはまた別な

んですが、そうした症状が出て診てもらおうと、「たいした病気じゃない、心配ない」といわれる。しかし、ご本人としては不安で仕様がなない。そこで必要なことは「たしかに重大な病気はもっていない。しかしそのような症状は起こすんだ」ということをよく通ずるように話してあげることです。それをしてあげないと、「自分にはこういう症状があるのに、あそこの医者は何でもないと」という風にとられてしまい、治療がうまくいかなくなってしまふのです。ですから、「何でもありませんよ。重大な事故、故障がなくても、時としてそういう症状が出てくる場合がありますよ」ということを、例を挙げてお話ししてあげる。そしてご本人を納得させることが大事なんです。ところが実際問題としては、時間が少ないとかいうんな事柄がからんでくるんだろうと思うんですが、私共医者が、治し得るものと治し得ないものという事を感じるのには、そういう積極的な領域に入り込んだ部分が非常にやりにくいというか、あるリミットを感ずるんですね。そうい

つた時に、或る程度そういった事を理解してくれる宗教家なり、または心理学者なり、精神科医なり、そういった方がいてくださると、もう少し意思の疎通がうまくいって治療そのものも効果を挙げるんじゃないかと思うんです。

それからもう一つは、最近よく問題になっている、いわゆる心身症的なもの、精神がおかしいために体に症状が出てくる。胃カイヨウになってみたり、いろんな事が精神がもとになって起こってくることがある。特に内科の領域でも随分出て来ます。そうなってくと、私ども、今までのようにただ体を治すということではなく、もう少し精神科の領域・心理学者の領域、或いは哲学、宗教の領域にまで知識を持って踏み込んでいかなくちやいけないんじゃないかということを強く感ずるんです。そして僕らとしては、そこに自らの能力の限界というものを時に感ずるわけです。哲学も心理学も、いろんな事に理解を深めなくちやいけないんですが、現実には、心筋梗塞を治してやらなくちや

いけないとか、脳卒中を治してやらなきやいかんというところが次に出てくるのです。だから、そういう意味で、私は、心というものを治してくれ、いやしてくれる人たちの存在を強く必要とするように思いますねえ。

#### — 宗教と医学の提携 —

司会 それで宗教ということが問題になって来ますが、どうも宗教ということが多少誤解されてると思うんです。今の先生のお話に関連して申し上げたい点は、『修証義』の最初に、「生を明らめ死を明らむる」ってことばが出てきますが、仏教では人生ということばは使わないうて生・死ということばを使います。人生ということばは生まれてから死ぬまでの間のこと、生死ということばは生まれる前、死んだ後のことまで含まれるんですね。そうすると、人生問題といった場合は、生まれてから死ぬまでの間に遭遇する問題、生死問題というと、人生そのものの問題というふうにいわれると思います。そこで、宗教というものを考えてみた場合に、人生そのものを問題にする宗教と、人生における問題、つまり、

経験する悩みを解決する宗教と二つあるんですねえ。

中村 なるほど。

司会 一般に宗教といわれているのは、人生における問題——経験する悩みを解決する宗教——これが一般的にいわれているタイプの宗教ですが、考えてみると、これは本当の宗教じゃないんです。本当の宗教というのは、人間であることの悩みを解決するもので、従って人生そのものを挙げて問題とするんです。生死以上の立場を見出し、その立場によって生き、死してはその立場に還る——この帰依の領域が求められるのです。その結果は生きてよし、死してよし。生きてよし、死んでよしということとは病気の時は病気の時でよし、貧乏の時は貧乏の時でよし、人生のあらゆる場面に幸福を感じる事ができる。つまり内面的な幸せを得てゆく、安心を得てゆくということが本当なんです。そうするとやはり一番大きいのは病気ですね。日本に一番早くはいって来たのは薬師様、その薬師様をおか

んで病気を治すというタイプの宗教は、今日でもたくさんあるわけです。しかし、病気というものは、お医者さんの診断と、それにもとづく投薬、それから本人の健康管理や環境の調整、そうしたものを合わせて、病気ははじめて治っていくものですが、お医者さんにかかれば金もかかる、あるいは時間をかけないと診てもらえない、診ていただいても、さっきのお話のようにどうも自分の思うような診断をしていただけじゃないか、そういうふうになると、いわゆる苦しい時の神だのみで、神や仏にすがるとなると思うんです。そうした場合、この仏を信じれば、この神を信じれば、病気は治るんだという気持ちでいる場合と、くよくよしている場合と、どっちが体にいいかっていえば、くよくよしない方がいいんだろうと思うんです。その点からいえば、多少の効果はあるだろうと思うんです。しかしそれは本当の効果というものがなくて、本当の健康を得るためには、「やはりお医者さんの診断と投薬と、本人の健康管理、そうしたものが合わさってはじ

めて治っていくと思うんです。

本人の健康管理ということになると、さつきいった人間そのものを問題にする宗教で、本当の安心というものを得なくちやいかんと思うんですが、それがなかなか、今日与えられていないというところに、宗教の側からみると、また大きな問題があると思うんです。

そういつた接点を、善光寺さんで医療相談を開設され、おいでなさる先生と両方から、患者に接していくようにすれば、やがてはその患者は、自分の健康を害したのが起因となって、正しい宗教に求めるようになり、また本当の幸せというのも獲得できるようになるんじゃないかと思うんですがね。

中村 なるほど。私も見ておきますと、先程の例もそうなんですが、あまりにもご自分の症状ばかりが気になって、ほんとに馬車馬的にそのことだけが気になって、全くまわりを見ないという方が出てくるんですね。

司会 ああ、なるほど。

中村 ぼくらはそういう時にやはり宗教家が何か、サジェスションを与えてですね。もう少し受け入れてあげるようなことをやってくれると、ぼくらとしてはずい分ありがたいというような気がするんですね。

方丈 ぼくは、病いの根源はだいたい精神的なものが大半だと思うんです。食べすぎて胃腸をこわしたっていうのは別ですヨ。家庭がうまくいかないとか、姑との間がうまくいかないとか、そういうような悩みが鬱積し、積み重なっていったて体のどこかに症状が出るといふようなものが非常に多いんではないかと思うんです。それは薬を与えることによって治るんだけれども、本当に治ったかかっていうと、その心をおさないと病いは完全に治らないというように感じるんです。そこで、今後悩むものがあれば、宗教的な立場のものが合体すると、ドクターのような医学的な立場のものが合体するそうすれば完全に治せる。この結合がうまくできたら世界の最高の理想的な医学というか大光明を見いだせると思うんです。



それからいま一つ。さきほど、ドクターがいわれたように、心臓は全々悪くない、しかし患者さんは何だかおかしいといってくる。そこに何かがある。私は、霊界つてもものを信じてるんです。人間に見えない世界その見えない世界の動きが人間の心身に影響を及ぼすことが多分にあるんです。そういうような世界を今後どういうふうにして解決していくかということ、これは実に大きな問題です。

三世——過去・現在・未来の三世は一つなんです。

昨日今日といえれば過去現在となるが、そういう枠をとれば一つなんです。永遠の時の流れなんです。空気だつて、吸ったつて吐いたつて全体量には増減がないんです。こうした宇宙観に立つてもものを見ていくと、三世はぶつとうしだし、過去現在未来がひとつだということであれば、霊の世界もそうで、死んだ世界も生きている世界もみんな見えるわけです。その霊界の見える立場で患者さんに当っていくつていうことになれば、ガンの末期症状というようなのは別として、精神



的に暗示を与えれば、安楽死をするんじゃないに、安心して死んでいける。死ぬというのは、ただ肉体の息がとまるだけでその命は、おいのちは生きてるんですね。宗教家はそこまで大きく目をひらいて、医学的に悪いところは医学の方々に治していただいて、あとは

ぶつとうした世界からみれば、九分どおりぐらいの患者は救われていくと思うんです。そういう世界は、今日明日知るわけにいきませんが、いわゆる宗教と医学というものは決して別のもんじゃないと思うんです。だから今の宗教家は医学に対し、現代の科学に対して大きく目を見開き、医学も大いに宗教的なものをも理解していった時、人類の病気のたいがいは救われると思うんです。ガンの末期症状だつて、ガンになつても安心して死んでいくというものもあれば、死んだ世界じゃない、次の世界で生きかえるんだというようなものがあれば、これほどすばらしい医学はないと思いますね。

——体と心の管理・調整——

司会　ですから、病気になる前、宗教によって、体と心の調整をしておかなきゃいけないんですが、明治以後の日本ではそれがなされていません。

方丈　そう、そのとおり。だからこれからの宗教家は、ドクターのことは借りれば、予防医学ですね。善光

寺で医事相談をはじめたのはそれなんです。病気にならない。病気になつても最少限度で喰い止めることが大事なんです。暴飲暴食、夜ふかしはいけません。これは、お医者さんがいうよりはむしろ宗教家が言つて、悪いものはお医者さんに取り除いてもらう。宗教家はもつともつとお医者さんの立場を理解し、ドクターのアシスタントのような気持で、身心の調整を指導し、また安心して死ねる本当の安心を与えることが大切なんです。それを本当に与えないところに大きな欠陥があるんです。

司会　そうです。宗教家は、心の予防医学にいま少し努力しなくちゃいけない。

中村　そうですね。それと関連したことですけども、私はね、予防的な見地から医者として見ている場合なんです。やはり、何かそういう教育が大事だという気がするんです。子供のうちから。いま方丈さんの話でも、こういうふうにしちゃいけないよ、といったりなさるのはお寺へ来て、方丈さんと接して、方丈さん



が一般のお檀家さんに教育してるわけですよ。それと同じようなことを、また医者も一般の人たちに啓蒙的な教育をしていかなきゃならないんです。個人個人のところ、来る患者さんだけを診てるというんじゃないで、もっと医者の方から外へ出て行って、積極的

に教育活動、特に予防医学面での教育活動をやらなくちゃいけないんじゃないかと思うんです。

**司会** 両方にいわれることですね。

**方丈** 問題はお医者さんでも、われわれでも同じことですが、患者さんがくると、もうそれに追われてしまふ。われわれも生活に追われて本当に仏法を説くことが二の次になってしまう。それで今後はやはり街頭に立ってでも「病気になるな」「人間の幸せは、絶対に病気にならないことだ」というような熱烈なものが必要ですね。ドクター方にも、宗家にも、そういう人が出ないとだめですね。それからもうひとつは家庭教育です。これは、おとうさんおかあさんが家の中で、病人が出たら不幸なんだ。だから病気にならないようにと、日常、早寝、早起きを励行させる。そういうようなことを子供たちにうえつけて、その子供たちがさらに子孫につないでいくと、伝えていくということに今こそ本当に目ざめることが大事ですね。

**司会** 体というのは機械と同じで、本当に管理ささう

まくやっていたら、そうめつたに病気になるもんじゃないと思うんです。ところが人間というものは弱くしておろかなものですから、なかなかその管理ができていじよ。

中村 ええ。

司会 そのできないわれわれが、神や仏を信ずることによつて、管理能力を高めていくのが宗教だと思ふんです。たとえば、酒やタバコが体に悪いからやめようと思つたつて、ただそれだけじゃやめられない。だが、信仰の一環として取り組んだ場合、これは簡単にやめられるんです。

中村 ううん なるほど。

——長生きのウルトラC——

司会 そこだと思ふんです。それで、方丈さんと先生の狙いは一致したわけです。そこで先生、今度は話題を変えて、長生きをするには、まずどういうことに心がけなくちゃいけないかといったような話を話していただいけませんか。

方丈 それが一番大事だよ。

中村 結論は、長生きのためのウルトラCつていうのはないんですよ。つまり、特効薬がない。だから、ただいかにその平凡なことを、常識的なことを守れるかということにこつは潜んでいるようなんですね。たとえば、日常生活の中で一番大きな影響力をもつてくるのはお食事だと思ふんです。これは、方丈さんもさきほどもいみじくもいわれた、食べすぎちゃあいけないこれはおいしいからと食べすぎると因果応報で別のことがおこってくる。ほどほどに食べていただく。

司会 もうひとつ大事なことは、飲みすぎちゃあいけない。

中村 だんだん嗜好品のことにはいっていかうと思ひますが、まず蛋白質—普通はお魚でも、あるいは四ツ足のお肉でもかまいません—そういつた動物性のもと、植物性の蛋白質—たとえばお豆なんかです—そういつたものとのバランスをとつていただくのが一番いいですね。それから油なんです、油の方も、



お魚の油とか、動物性の四ツ足の油もふくめて、そういう動物性の油と、植物性の油とを、やはりほどほどに。時々はてんぷらを食べるなり、野菜サラダにドレッシングをかけて食べるなり、それからもうひとつは、時々はステーキを召しあがっていただいても結構なんです。方丈さんも御老師もお好きなんでしょうが、お魚の肉でも、もちろんそれは結構ですし、油でも結構なんです。ただ、いつまでもお魚ばかりとか、いつまでも四ツ足ばかりとかいうふうになつたりすると、体の抵抗力がちがってくるんですね。それから、菜食主義も大変結構なんです。今でもいろんなところで、インド人なんかもずいぶん分菜食主義やっておられるわけですが、厳密な意味での菜食主義っていうのは非常に少なくなっている。やはりチーズだとか牛乳だとか、そういうものを召しあがっておられる。鶏の卵とか牛乳はいいんだ。あとは菜食ばかりというようなタイプの方がふえている。体の抵抗力の面からみても、やはりそういう人たちがいいんですね。植物性の

蛋白質だけというのではやはり多少抵抗力が弱くなる可能性がある。やはり適当にお肉なんかも召しあがっていただきたい。そういう意味では、お坊さんも若干ナマグサになった方がいのではないかと思うんですね。

方丈 そりやそうですね。一方に偏してはいけませんね。あくまでも中道でなくては。

中村 そうですね。

方丈 ドクターの話を聞いて、何か、そういうようなところに急所があるように感じますね、

中村 調味料にしてもお塩もですね、実際にはお塩はそんなに必要なものではない。たとえば夏で汗をかいたり、熔鉱炉のそばで働いて汗だくの人も、塩は実際にそんなに必要なものではない。もちろん、全くゼロにはできませんけども。人間の体はうまくできてまして、塩をとらなければ、かく汗、お小水もみな塩分が減っていくことが多いんです。体の中の塩はうまく適当に調節をされてるものなのです。高血圧とか、この

ごろではガンにも塩分の過剰っていうのはからんでいることがわかってきましたから、特に塩漬けのもの、お魚の干物もそうですね、お肉の塩漬けのもの、それから、おしんこだとか、そういうたものをたくさん食べるとガンをつくる可能性が出てくることわかってきました。それで、今までたくさん召しあがっておられるんだったら、ちよつと減らしていただいた方がいいんじゃないか、全くゼロにする必要はないと思うんですね。そういうような意味で、これもまた中道になつちやうんじゃないかと思えますねえ。コレステロールや何かのことだって、やはりほどほどにイカとか貝とかエビなんかも食べていただいた方がいいんです。それから問題は嗜好品ですが、タバコはどうもいいことはなさそうですねえ。肺ガンにしる胃ガンにしる食道ガンにしる、それから心臓病にしる、よくないですね。タバコはできるだけ減らしていくにこしたことはない。

ただアルコールはですね。おもしろいことに全くぜ



口の人の方が、少し飲んでおられる人よりも死亡率が高いんです。これは人種を問わずですね。もちろん飲みすぎますと、高血圧、ガン、脳卒中、それから肝硬変、そういった病気で死亡率がまたふえるんですね。では全くゼロの人からなぜ心臓病が多いのかっていうのは、今までわかったところでは、いいコレステロールというー体の中に悪いのといいのと二種類あることがわかってるんですがーいいコレステロールがどうも減ってしまう。それがどうも心臓病をふやしてしまうのではないか。だいたい、適量飲んでおられるの方が長生きする。とにかく死亡率が非常に低いです。むかしから「酒は百薬の長」といわれたのは確かだという事が、医学的にも証明されつつあるわけですね。ただ理由が、いまのところまだよくわかっていないところが多いんです。では実際にどれくらいの量かといいますと、だいたいお酒で0.5合から1.5合くらいのところが一番いいんだそうですね。それからビールならば半本から一本半ぐらい、ウイスキーではシングルのグラ



ス一杯からダブル一杯半ぐらいでしょうか。ワインですとワイングラス一杯から三杯ぐらいのところですかね。やはりそのへんがひとつの目安で、一番長生きになるようなお酒の飲み方なわけですね。ですから、たくさん飲んでおられる方は、できるだけそのへんま

で落としていただいた方がいいます。ただ、医学的にはぼくら、今躊躇ちゅうとよを感じているのは、ゼロの人に、長生きをするからちよっと飲みなさいとっていいかどうかなんです。お酒というのはつい、一杯が二杯になり、二杯が三杯になるというように、トレーニングでだんだん強くなりますからね。それは、人を見て法を説かなきゃいけないんですけれども。そういうふうにしちんと守れる人であればちよっと飲んでいただいてもいいかもしれないというふうに思いますね。

それから、あとはほどほどに運動していただかないといけないんです。運動していただきますと、エネルギーをつかうということだけじゃなくて、血管を非常にしなやかにしてくれる、血液の流れをよくしてくれるものですから、たとえ血管が一本詰まっても、こんどは他からの血管がじゅうぶん開いてくれて、代償してくれるんですね。ですから、心臓病にもなりにくい、脳卒中にもなりにくいのです。適当な運動はどうしてもやっていたただかないといけません。それから一般の

人であれば、たとえば会社員を対象にした場合、一日に一時間くらいの散歩をおすすめしたい。たとえば、朝三十分、夕方三十分、それができなければ、昼休み一時間歩いてらっしゃいというわけです。ただブラブラと歩くんじゃないで、その時は少し大きく手を振って、汗ばむぐらいに早足で歩いていただくことをお勧めします。それだけでもずい分ちがう。一週間一回ゴルフに行っただけでは運動にはなっていないんですね。やはり、絶えず日常くり返していただいた方がどうもよさそうです。

あとは睡眠ではないでしょうか。できるだけぐっすり寝ていただく、そうすることで人間というのはおもしろいもので、悪いこと、いやなことの記憶が少し薄れていくんですね。いいことは割にきちんとした引き出しにしまわれて残っていることが多く、いやなことはだんだんだんだん薄れていくことが多いんです。そういう意味で、ぐっすり寝ていただくことが大事じゃないかと思えます。あと、問題は、少しでも何

かご自分の体に異常を感じ、症状を感じたら、できるだけ早く診ていただくこと。早期発見、早期治療にこしたことはありません。胃ガンなどは、むかしなら宣言されたらだめだというふうにつながってたわけですが、このごろは治る病気だというふうになってきました。あと動脈硬化、今ぼくは頑張ってる最中ですが、それだってここ十年見ればずい分よくなってしま。現に今でも動脈硬化はかなりよくなるというところまで来ましたから。さきゆき医学的に人間の病気についての解決という観点では、ずい分先が見えつつあるという現状にあるのです。できるだけ予防的な意味で、今申し上げたようなことをやっていただければ、今度は病気になるはずということになるんじゃないかというふうに思うんですけれど……。

司会 さきほどのおはなしで、酒を全然飲まないより、少々飲んだ方がいいとのことですが、ご婦人はあんまり飲んでないと思うんですが、ご婦人の方が長生きする率が高いというのはどういうことですか、



中村 女性の場合にはどうも、女性ホルモンが影響してる。また、女の人は何でも強いんですけれども、動脈硬化に対しても抵抗性があるんですね。

司会 ああ、そうですね。

中村 それには、ホルモ的な問題が論じられている



んですね。

司会　じゃ女の人は飲まなくてもいいわけですね。

中村　女の人も多少飲まれると、いいにはいいんですね。

方丈　もっと長生きして90・100まで生きたら、世の中却って困るってことも出てくるかもわかんないねえ。

中村　だから寝たきり老人をふやすっていうんじや、社会的に興味がない。できるだけアクティブに動いてくれるお年寄りになってほしい。お年寄りはぼくもよく拝見するんですが、意欲がなくなっちゃうんですね。たいした病気は持っていない。だけど、意欲がないためにご自分で治そうとしないんですね。だからぼくはおとといかな、読売新聞に書かされたんですが、まわりからある程度刺激を与えてやらないといけないんですねえ。できるだけ、ご自分で生きようとする意欲を持たせてあげる。そうじゃなくてもだんだん無関心になって、洋服もだらんとしちゃうし、ひげもぼうぼうにしたりなんてことになりかねませんものでね。特に

また自覚症状も出にくい。たとえば、肺炎になっても熱が出ないとかです。まわりもそうなっているとあんまり気にしないわけですね。おじいちゃん熱がないからたいしたことないよなんていうようなことで。だけれど実際には肺炎でもうアツプアツプしてるなんてことにもなるわけですね。だから、まわりがある程度気をつけてあげて、刺激を与えるようにしてやる。あと生きようという意欲は、方丈さんや佐藤老師にですね、吹き込んでいただくことですね。

**方丈** そこにいきつくわね。だから、結局は、医学と宗教ってのはもう、ひとつで、合体してね。

**司会** 手を結ばなくちやいかんってことですね。

**方丈** 人類の新しい本当の幸せってのを、なんか善光寺から考えなくちやいけないという時代に到達したと思うんですが、どうでしょ。

**中村** そういう意味では、たとえば子供たちの登校拒否なんていうのも、あれは宗教家があったらうまくいくんじゃないかと思うんですね。ぼくらも時々相談

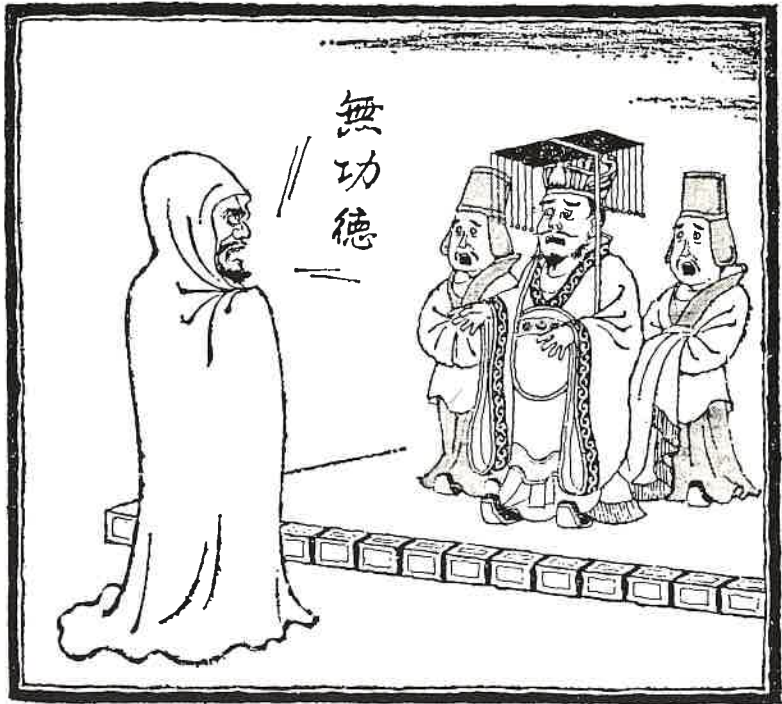
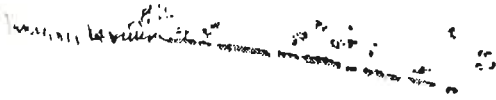
を受けるわけですが、精神科医じゃないから、あんまり適切なことは言えませんが、それはよしんば精神科の先生のところへ行っても、今いい名案はないと思うんですね。けれど、登校拒否の子供たちってのは結構いるわけですね。あれを治してくださるのは、ぼくは案外宗教家じゃないかという気がしてしょうがないんですね。

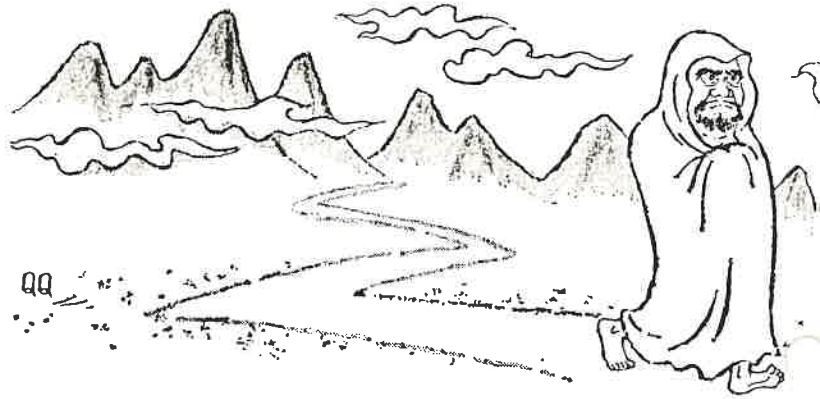
**方丈** 宗教ならね。ありとあらゆるものを救えるよね。これは、もう病気でも、特にガンの末期症状だつて、そのものは治せないけれども、その人たちの心をね。ぼくは、宗教で救えないものはないと思うよね、心の問題なら。だから宗教家が努力しなければいかん。そうでなければ宗教家としての生命がないというようなことを感じますねえ。

**司会** じゃあ、この辺で。

**方丈** 今日は本当にどうもありがとうございました。

雪の晨ゆきに臂あしたを断ひじち





ダルマさんでお馴染の菩提達磨大師は、三年の歳月を費してインドから中国（当時は震旦こんたんと呼んだ）に来した。

お釈迦さまの教えは、迦葉尊者、阿難尊者、商那和修尊者というように、あたかも一つの器の水を他の一つの器に残さず漏らさず移すように、師匠から弟子、師匠から弟子へと法灯が伝わったのだが、ダルマ大師は第二十八代目の人である。

交通未開のころ、しかも老齢の身をもって未知の国に向かうその勇猛心は、身命を惜しむ凡人には思いも及ばないところで、これは、ただひたすらに真理を伝え、迷える衆生を救おうという大慈悲から生れた尊いぶつぎょう仏行である。

普通元年（五二〇年）九月二十一日、ダルマ大師が広州府に着いたことを知った梁の武帝は、人を派し、大師を金陵（いまの南京）に迎え、

「自分はこれまで寺を建て、経を写し、僧尼を供養してきたが、どんな功德があるか」



と、たずねた。

ダルマは、味もつけなく

「無功德」

と、答え、色よい返事を期待していた武帝を失望さ

せた。

武帝の機嫌をとればよいのに、とは凡俗の浅慮で、

迷える衆生を救おうという誓願一筋に生きるダルマ大

師には、妥協や迎合はミジンもなかった。

「仏心天子」といわれる梁の武帝も、会ってみれば、

現世利益を求めるだけの仏教の狂信者に過ぎないこと

を知ったダルマは、揚子江を渡って魏の国におもむき

崇山すうざんの少林寺にとどまり、壁に向かって九年間坐禅し

た。それで人々は彼のことを「壁観へきくわんバラモン」と呼ん

だ。

このダルマ大師のところに、神光しんこうという名の修行僧

がおとずれた。時は十二月九日で、大雪が山を埋め、

峰を没していた。神光は、雪をふみわけ道を求め、つ

いにダルマ大師のところにたどり着いた。深山高峰の



冬の夜は、屋外に立っていることはできそうもなく、竹の節さえ割れる寒さだった。が、ダルマ大師はふり向きもしない。神光は、眠らず、坐らず、休まず、雪中に直立不動のまま立ちつくした。降りつもる雪は、神光の腰をうずめ、落ちる涙は凍って玉をなし、衣服は凍りついて、さわると一様に氷柱が立っている。全



身は冷え切っているが、求道の心の火は赤々ともえていた。

夜が白々と明けかけたころ、ダルマ大師はようやくふり向いてたずねた。

「お前は長い間、雪の中に立って何を求めようとしているのか」

「お願いです。お慈悲をもって真実の仏法をお示しください！」

涙ながらに懇願する神光の言葉に対するダルマの言葉は氷よりも冷いものだった。

「仏法を求むるはいのちがけである。小徳小智のものが軽々しく慢心をもって真実の仏法を求めようとしても、それは無駄なことだ」

神光は、この言葉をきいて、いよいよ志を固め、ひそかに利刀をとり、みずから左の臂を斬り落してダルマの前に差出した。

ダルマはこの神光こそ法を継ぐに足る人物であることを見てとり、入門を許した。

こうしてダルマ大師は中国禅宗の初祖となり、神光改め慧可えかは二祖となった。

「二つの月」(佐藤俊明著・井上球二絵)より

# ロス禅センターでの生活

前北米開教師  
ロス禅センター駐在員 池沢 紫山

ロスアンゼルスは関東平野と同じ広さだと伝わっています。一年を通して二十日間程しか雨の日がありません。グリフィス天文台から眺める街並はカリフォルニアの青く広大な空の下に区画整理された家々が遠くサンタモニカの海岸まで続いています。ダウンタウンからサンタモニカに伸びるウィルシャー通り。これは米国人が世界一美しい通りだと誇るものです。

そのウィルシャー通りから二区画入った所にロスアンゼルス禅センターがあります。天文台から南を見ると丁度正面に当たります。禅センターは今から十六年前に善光寺御住職黒田武志老師の実兄前角博雄老師が創設されました。ノルマンディー街と九番通りに囲ま

れた一区画を占有し、十三棟の建物に百三十名が居住して前後二つの禅堂を中心にして協同生活をしていました。私は二年間この禅センターで修行し、昨年帰国しました。今年には善光寺様開創十五周年に当たられるとのことです。御住職黒田老師のご紹介で渡米させて頂いた御縁で拙文を寄稿することになりました。

昭和五十六年三月二十三日、根雪の残る秋田からロスアンゼルス空港に着いた時、空から見る街は夕暮れの中基盤状の道路に点々と並ぶ宝石のような車のバックライトが印象的でした。その日迎えに出て下さったのは、一ヶ月前一足先に来ていた開教師の采川先生とこれから同室になるというポール智源さん、そして同

郷の宮尾さんでした。その夜前角老師宅でセンターの主なメンバーが集まり歓迎夕食会をして下さり、機上での不安も吹き飛んだことでした。食事を運んで下さる米国人の尼僧さん達の立居振舞いの見事なことに驚き、堅さのない自然な所作にセンターでの修行の様子を感じとることでした。夕食が済みポールさんの部屋に案内され、きちんと用意されたベットと机を目の前にして、本当に来て良かったなと思いました。

翌朝は四時に起き暁天坐禅をし朝課の後入堂の拝をしてセンターの一員となりました。それから采川さんに連れられてセンターの建物を回りメンバー一人一人に紹介してもらいました。皆の名前を覚えるのに三ヶ月はかかったでしょう。なにしろ英語の名前の他に日本語の安名を使う人も居るので大変でした。まして私にとっては見慣れない米国人達の人相は当初誰を見ても同じ様に感じ、二日目からはメモ帳を持ち歩き、名前と特徴を書き込み乍ら覚えたものでした。言葉については、中学校以来通算すると十年以上も英語を学

んできていることもあって多少自信はあったのですが、正直言つて本場の英語は当初半分以上聞きとれないのにはいささかショックでした。でも幸せなことに采川さんも居ましたしポールさんは日本に一年半滞在していた程の日本通で日本語も話せる人でしたから大助かりでした。彼はUCLAの大学院生で日本佛教を専攻し既に正法眼蔵を翻訳している程日本語に精通していて、逆に私の方が教えられる場面がありました。

センターでの私の仕事は典座寮(キッチン)でした。朝八時半から全員での清掃が済むと九時から午後五時まで百三十人分の食事を用意するのです。野菜食中心で肉は使わず魚も二週間に一度という献立なので、朝食の果物、昼夜のサラダの切り込みが私の主な仕事です。米国風のメニューの他、メキシコ料理、スパゲティ、うどん、みそ汁、そば、炒めご飯等献立は色々工夫されています。人參の切れ端、玉ネギの皮、セロリ、レタスの堅い部分を捨てずにスープのだしに使うところは学ぶべきところでした。材料の仕入れはカー



ル典座長が週に二度朝五時にダウンタウンの中央市場から買ってきます。市場からまとめて直接買うのでコスト安で、例えば六十ヶ入トマト一箱が三ドルで買えます。カールさんによると百三十人分の仕入れ費用は月に約五百ドルとか。ざっと計算してみると一人分一食当たり原価約一ドルとなります。寮員はカールさんの他四十八才になるニューヨーク生まれのクレアさんそしてイタリア系のジュデイスさん二十八才を主にトレーニーと呼ばれる短期参禅者が常時二、三人手伝ってくれています。キッチンには道元禅師の典座教訓が掲げられてあり仕事場は常に清潔にされています。さて総受付のある三階建てのパドマハウスと呼ばれる赤レンガ造りのビルの中には、一階にブックストア、法律事務所があり、二階はセンターメディアカルクリニックという診療所、三階は坐禅に使う坐蒲や改良衣を作っている縫製室があります。それぞれセンターの内外の人々に親切なサービスを提供しています。地下にはコンピューター室があり千名余りの会員のデータや年

三度一万部發送しているセンター誌の配布先データが記録されています。その他洗濯室、郵便局派出所がありその隣りにパドマブティックという一画があります。ここにはメンバーがいらなくなった家庭用品、着物、靴、ラジオ、レコード等が並べられてあり、必要な物を誰でも自由に持つていけることになっています。私もずい分お世話になりました。

センターの生活はなんといっても朝と夜の坐禅が中心です。日中は、学校に行く人、会社勤める人、センターで働くスタッフと様々ですが、朝晩の禅堂は老師を中心に黙々と坐る人一色となるのは壯観です。修行道場であり、コミュニティでもあるセンターは、日本的な縦社会ではなく、大人から子供に到るまで、一人一人の個性が尊重されて伸び伸びと思ひ切り修行できる所です。一年中温暖で湿気の少ないロスの気候は坐禅修行に最適です。夏の極暑の時期はともかく、汗かきの私には大変有難いことでした。禅堂の二階にある開山堂には、高祖道元禪師、太祖山禪師の御真像

そして中央に御開山黒田白純老師の御真影を安置し、その前に黒田武志老師より御寄贈頂いた米国で第二番目の御佛舍利がストウパーに納められています。花器には毎日生花が生けられて、尼僧のパールマーさんが毎朝御洗面、献供をしてお仕えしています。

〃往くところ我が家ありけりかたつむり〃という歌があります。初心さえ忘れなければ、何処に行っても道が開けると信じていたことが、センターにきて、決して間違っていないかつたとうなづかせて頂いたものです。お別れパーティーで〃これからセンターの家族の一員として我々と共に精進しましょう〃とってくれた永安さんの言葉を肝に命じて秋田の地で頑張っていると思っております。御世話になりました皆様に衷心より御礼を申し上げ筆を置くことに致します。

合掌

本稿は『成寿』創刊号に寄せられたものですが、紙面の都合上今回掲載となったものです。(編集部)

# 一人一寺・心の寺

## 井上球二

一人一人が、心の中に寺を建てましょう。建てたからには、自分は住職ですから、仏一本尊に日々お仕え

し、延命十句観音経(略して十句経)を誦えましょう——という運動をはじめましてから、この六月十四日があれば、満二年になります。

超宗派運動ですので、各寺の本尊は、阿弥陀如来・大日如来・観音菩薩・不動明王等々と種々です。又、おもしろい事に曹洞・臨濟・天台・真言・日蓮・浄土と各宗のお坊さん

尼さん方も、伽藍とは別に、心の寺を建てておられ、法友になって下さっているのです。

寺には、霊場札所のように番号をつけておりますが、京都の179番久遠山妙法寺、秋山文陽師は九十八歳で、日蓮宗大雪山の住職を五十年やられ只今で隠居という翁ですが、「各宗派は、皆それぞれワクを造っておりますが、一人一寺は宗教の革命であります」といみじくも喝破されております。(私が喝破と書きますこと

は、おこがましいとは存じますが、いささか自負もございますので、「金さえかければ、どんな大伽藍でも建つが、無形のを心に建つのは大変なことですね」とおっしゃった方がありました。

おっしゃる通りです。昨日も今日も明日も仏道という道を住職たるの自覚をもって歩みつづけるのですから、私は、一人一寺は、日日教であり、自覚教であると言うのです。

そういう点をいましている和歌山20番正大山妙願寺 横田康二師(昨年二月、当時高校二年生)が、機関誌『心の寺』2号に寄せた文の一部を紹介いたします。

自覚—この自覚、これを以って一人一寺は成り立っているんだと

思います。これは素晴らしい事だけに、一つ緩めば、何が何だか分からなくなるような気がします。本当にウンと気を引き締めて、これからの仏教は、この一人一寺の私にかかっているんだと、大いに奮い立たなければいけないと思います(中略)「心の寺」これを通じて、お互いに切磋琢磨し合わなければ、一人一寺は観念的な一面もあるが故に、昼行灯みたいにポーッとした訳の分らんものになってしまうんじゃないかと思えます。みなさん大いに張り切りましょう(後略)

ここで私の生立ちを極しかいつまんで特急で述べさせて頂きます。

大正六年、広島県尾道市生れ。

幼稚園へは行くまでに、途中で弁当を食べては、しかられ。ひとりポツチで拌みゴツコ?をしているのが好きという変な児<sup>へん</sup>だつたようですが、家に、お盆にだけ蔵から出して祀る三尊(阿弥陀・葉師・千手観音)の掛軸がありました。幼い私には、頭上に沢山の顔、いっぱい手に色んな物を持った優しいお顔の千手観音が特別に大好きでした。

これを、昭和二十年八月六日、B29の爆撃で火の路地となった中を、これを抱えて逃げるのですが——これはしばらくおきました。

中学四年の夏、山上に庵を編んで、不動明王を祀る老僧から、読みなさいと貸して下さったのが、般若心経

の講話でした。少年の私を強烈にとらえたのは「色不異空 空不異色 色即是空 空即是色」でした。これが役に立つ時が来るようとは——。

昭和二十年七月十二日。戦争末期、阪神間西宮に住んでいたのですが、朝、便所で、ホースから水がピューツと出るような特大喀血をしました。が、空襲に明け暮れの日々です。医者、薬、安静はおろか、食べ特も口クにない状態です。絶対絶命です。ひらき直るより生きるみちはないと思いました。「色即是空」の世界に目を向けました(少くとも必死でそちらを見ようとした) 反対に恐怖心は希薄になったようで、心もやすらぎを憶えてか。その時は、まだ十句経は知りませんでした。が、第三



句・仏と因有り〳〵のとおり、私のい

のちも、根本的には、仏のおんいのちと同じ素因を有していた訳で、第八

四句・佛と縁有り〳〵絶対絶命のところから、はい上らねばという縁によつ

て、大いなるそのいのちの功德が作

用いて、自然治癒力ともなり、命を

長らえることが出来たものと思いま

す。

さきに火の中を逃げたという話は、喀血の日から二十五日目にあたります。

昭和五十四年。職業的にも仏を描くようになっていた私は、千手観音を描き、30センチ四方の小引出しの上に、額に入れて祀り、東大山善慈寺と号しました。そうして当山の境内は間口30センチ奥行30センチとう

そぶいたものです。

昭和五十四年八月末か九月初めで

したが、フトしたことで、白隠禪師

七十五歳の時の著作『延命十句観音

経靈驗記』を読み、白隠の各地を廻

つて、十句経を拡めようとされた姿

勢にうたれ、この本をイラスト入り

で分り易く書いて、世に出し、白隠

さんの意志を継いで、十句経を拡め

よう、と大まじめに考えまして、さ

いわい三学出版の増田社長のご了解

を得て、その大仕事に取組むことに

なりましたが、明治以降現代訳した

人がいないという事なのですから、

全く門外漢の私が訳すなんてことは、

どだい無理なはなしでしょう。

が、もう後へは引けません。そんな

ときの十一月二十日。朝の勤行の

さ中、突然、全く突然、金色燦然た

る光芒の中に千手観音が現われ給う

たのです。私はもう称名し続けるば

かりでした。

この事によって、今、如何に困難

の中に在ろうとも、必ず本は出来る

のだ！との確心を得ました。

そうして、翌、五十五年八月、い

よいよ出版されました。と、九月に、

静岡市の川上六三郎なる人物から、

本を読んだからといって手紙がさま

した。三十六歳・独身・合鍵製造靴

修理業で、この人もまた十句経を拡

めたいという願いをもっていました。

後にして思えば、この出逢いが一人

一寺への道になったのでした。

川上さんは、私の東大山善慈寺に

対して、西山観音寺を建てました。

そこで、二人で『十句経を払めるミニ会』をつくりましたが、申込者が一人もありません。この一人も無いということから、外の人達にも寺を建てて貰い、十句経を唱えて貰おう「一人一寺」とひらめいたのです。年が明けて、五十六年一月十四日、六さん上京し、昼食を食べながらの時のことでした。

斯くして、六カ月後、三島の臨濟宗正眼寺に於いて、一人一寺提唱第一声をあげさせて頂き、ここに第一歩を踏み出したのですが、早や二年になろうとしております。

ここに『心の寺』6号の原稿が来ておりますが、白隠さんの靈驗記の現代版とも言えるようなものなので、概略を紹介します。

永平寺貫主秦慧玉禪師から得度を受けたという神奈川187番松林山不孤庵 佐々木直心師の文ですが、昨年九月二十七日、師の姪（31歳三児の母）が外出先で斃れ、静岡済生病院に運ばれた時は、もう瞳孔が開いていた。脳内血管破裂で、手術後、一命は取り止めたとしても、意識が戻るには一年はかかる、という状態でしたが、師が家族の方に十句経を誦めるようにと拙著を渡された。お姑さんも二人の子供も家族全員一心に誦えた。するとです！十月二十日から容態に変化が現われはじめ、十二月には杖なしで歩行が可能になった！という譚なのです。 観世音 南無仏 合掌

千手観音さまのお手の上の小さな宮殿はなんだか心の寺のような気がして



## 善光寺だより

### 歳末助け合いの托鉢

師走に入った一日、横浜市港南区日野町の善光寺（黒田武志住職）ではお坊さんと檀家の人たち十八人が「歳末助け合い募金托鉢」をした。お寺のある日野町を午後一時に出発して京浜急行上大岡駅から弘明寺駅にかけて往復十数キロの道を約四時間かけて街道筋の商店や民家をたずねた。同寺は昨年新しい本堂（釈迦殿）が落成し、その記念に「社会の人たちになにか手を差し伸べられれば……」と助け合いの託針を計画したという。

道中では通りがかった子ども連れ



（朝日新聞）

のお母さんや年配の人たちが心よく喜捨に応じ「ご苦労さま」「頑張ってください」と激励した。午後五時まで約二千軒を回り、合計十四万三千九百八十七円の浄財が集まったが、同寺では市を通じて寄付するという。

### 節分のみまき

今日は太陽暦を使っているのだから、節分は旧暦の大晦日。新しい年を迎えるにあたり、除災招福を祈るのは人情の自然で、昔から追儺の厄払いがおこなわれて来た。それに民間の農繁行事である豆まきに加わって今日の節分会となったのである。

善光寺では十一時より不動殿において節分祈禱会。引続き年男、年女及び厄年当りの人二十一名を中心に、大にぎわいのうちに豆まきをおこなった。終って清興として、テレビでお馴染の三浦ひろしさん（檀家）のマジックに参列者一同興じ、なごやかな昼食を囲んでたのしい一日を過ごした。



### 早朝坐禪に参加して

横浜栄光院一級 石川裕子11才

朝の5時半に起き、道着に着がえた。今日は善光寺で早朝ざぜんなので。15分くらいたつと足がしびれてきました。ときどき、方丈さんの声が、ものすごく大きくきこえまし

た。前の方で、背中をたたかれる人がいました。私はその音を聞くのがこわくてなりませんでした。ときどき私のうしろを方丈さんが通りました。その時、いつも私はきんちょう



しました。だって、ぶたれたら大へんだからです。とても足が痛かったけれども一生存けん命やりました。

鐘の音がなりました。そして手をひざの上のせて大きく体を左右にふりました。私は45分間がまんができたのです。私は、がまんの道を一歩すすんだのです。

これからも、うーんとがまんをして、早くがまんの道をぬけたいです。

### お便りから

『成寿』拝読致しました。先づ

三十一頁、及び三十四頁の御住職の笑顔の写真を拝見し「オヤッツ」と思う、今迄とは違ったものを強烈に感得しました。「此の方は完成を直指して居られるな」という思いなのでしょうか。それはこれ迄に幾度

となくお目にかゝって居るにも不拘

全く識り得なかつた一面を見たとい  
う、心の動きとでも申しませうか。

「身代り不動明王」「日限り不動明  
王」の不思議も知りました。この世

の中に、不思議や奇蹟が有る事は、  
私も身を以て体験して居りますが、

それが、かくも自信に充ちた活字に  
なつて表現されますと、より一層の

説得力があります。不動明王のより  
一層の御利益のあらん事を、不動尊、

桃型香盆、大、小各一ヶ、丸型香盆  
三ヶ、(現存は二ヶです)であと一ヶ

は至急彫らせませう)を貧者の一灯と  
して贈らせて頂きたく存じます。

懶富士社長

阿久津経之

## 編集後記

▼『成寿』第二号をお届けいたしま  
す。今回は、海外留学僧派遣に関す  
る記事がメインになりましたため多  
少誌面が硬くなりましたが、内容が  
内容ですので御了承願います。

▼五月二十八日は不動明王様の大祭  
です。今年は大般若経六百卷の紐解  
き法要がおこなわれますので、ぜひご  
参詣くださるようお願い致します。

なお、記念講演には渡辺はま子女史  
を予定しております。

▼別冊第二号「善光寺開創十五周年  
記念事業寄付芳名簿」をお届けいた  
します。ご協力いただきまして厚く  
御礼申し上げます。

▼南画院副理事長三喜庵(伊藤喜三  
郎)先生には、本誌のため、一、二

号とも表紙並びにカットに、たいへ  
ん素晴らしい画をご揮毫くださいまし  
て、本当に有難うございました。引  
続き今後ともご揮毫いただけますの  
で、何卒ご期待くださいますよう。

▼今年十一月下旬、私がかつて修行  
したタイ国ワット・パクナムで、前  
住職(中興の祖)の生誕百年祭が行  
われることになり、それに招待をい  
ただいております。お檀家の方でご  
希望の方はごいっしょいたしますの  
でお申し込みください。(黒田)

成寿 第二号

昭和五十九年三月十二日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野町一六〇四

電話 〇四五(八四五)一三七一

印刷所 神奈川新聞社出版局



波濤の彼方から  
流れくる声を聞いたか  
ヒュウヒュウと波の合間に  
きれぎれな声を  
あれこそ観音のみ声  
波濤に身をただよわせ  
汚濁の中を住家とし  
救いの手を一杯に広げ  
叫びながら  
泣きながら  
あゝ観世音菩薩を  
だれも見ようとし  
だれも知ろうとし

—— 遠藤太禅 ——

# ご家庭にお仏壇を



当社施工 善光寺釈迦殿内陣莊嚴具

## 仏壇 集雲堂 仏具

取締役会長 山口之徳

取締役社長 中川孝一郎

- 本 店 ■ 東京都台東区元浅草4-9-14<〒111>  
☎東京03-842局0201番(大代表)
- 稻荷町店 ■ 東京都台東区元浅草2-11-10  
☎東京03-833局9511番(代表)
- 上野駅前店 ■ 東京都台東区東上野3-39-5  
☎東京03-834局1061番(代表)
- 等々力店 ■ 東京都世田谷区等々力6-36-11<〒158>  
☎東京03-705局0201番(代表)
- 砧 店 ■ 東京都世田谷区砧1-1-27<〒157>  
☎東京03-417局6751番(代表)
- 横浜 店 ■ 神奈川県横浜市西区南幸2-17-18<〒220>  
☎横浜045-311局0201番(代表)
- 船橋 店 ■ 千葉県船橋市本町7-11-9<〒273>  
☎船橋0474-25局1072番(代表)
- 大宮 店 ■ 埼玉県大宮市宮町2-65<〒330>  
☎大宮0486-45局0201番(代表)
- 松戸工場 ■ 千葉県松戸市五番六夷4-60  
☎松戸0473-84局0201番
- 長岡翠雲堂 ■ 新潟県長岡市高畑町617番地<〒940>  
☎長岡0258-33局5644番(代表)